

# 鈴木さやか 学位論文審査要旨

主 査 藤 原 和 典

副主査 山 崎 章

同 福 田 哲 也

## 主論文

Development of a prognostic scoring system using MYC expression and soluble interleukin receptor -2 level for diffuse large B-cell lymphoma

(びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるMYC発現と可溶性インターロイキン-2受容体を用いた予後予測の開発)

(著者：鈴木さやか、桑本聡史、河村浩二、松下倫子、本倉徹、細田譲、前垣雅哉、細田利奈、原健太郎、梅北善久、福田哲也)

令和5年 Yonago Acta Medica doi: 10.33160/yam.2023.02.007

## 参考論文

### 1. 著明な形質細胞増多で発症した血管免疫芽球性 T 細胞リンパ腫

(著者：鈴木さやか、渡邊怜奈、和田良樹、本村鷹多朗、園川佐絵子、岡田啓五、熊谷隆志)

令和元年 日本内科学会雑誌 108巻 992頁～998頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、びまん性大細胞性B細胞型リンパ腫の予後予測について検討したものである。多変量解析を行った結果、病理組織におけるMYC蛋白発現陽性とsIL-2R>2000 U/mlが予後不良と特に強い相関を示した。これらの結果をもとに、MYC、sIL-2R>2000 U/ml、年齢の3項目を用いて独自のスコアリングシステムを作成したところ、生存率の解析において非常に予後良好な群と非常に不良な群を層別化することが可能であった。この方法は、従来のスコアリングシステムに比べて、シンプルであるが十分な有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。